

令和3年度 東京都内湾水生生物調査 2月稚魚調査 速報

●実施状況

令和4年2月1日に稚魚調査を実施した。天気は晴で、気温は5.8～8.2℃であった。調査地点の風は、お台場海浜公園では東 2.0 m/s、城南大橋では北西 1.2 m/s、葛西人工渚では南東 0.3 m/s であった。調査当日は大潮で、干潮は 11 時 16 分、満潮は 16 時 35 分であった(気象庁のデータ)。

全調査地点において、アシシロハゼが確認されたほか、お台場海浜公園では抱卵したエドハゼが採取された。また、葛西人工渚ではイサザアミ類が大量に採取された。

	お台場海浜公園	城南大橋	葛西人工渚
作業時刻	8:46-10:05	10:33-11:30	11:58-13:25
水温(℃)	9.0	10.2	10.2
塩分(-)	30.5	27.6	26.4
透視度(cm)	>100	>100	85
DO(mg/L)	8.0	8.4	9.3
DO飽和度(%)	84.6	89.0	98.0
波浪(m)	0.1	0.1	0.1
pH(-)	7.9	7.8	7.9
水の臭気	無臭	無臭	無臭
備考		干潟は干出していなかった。	

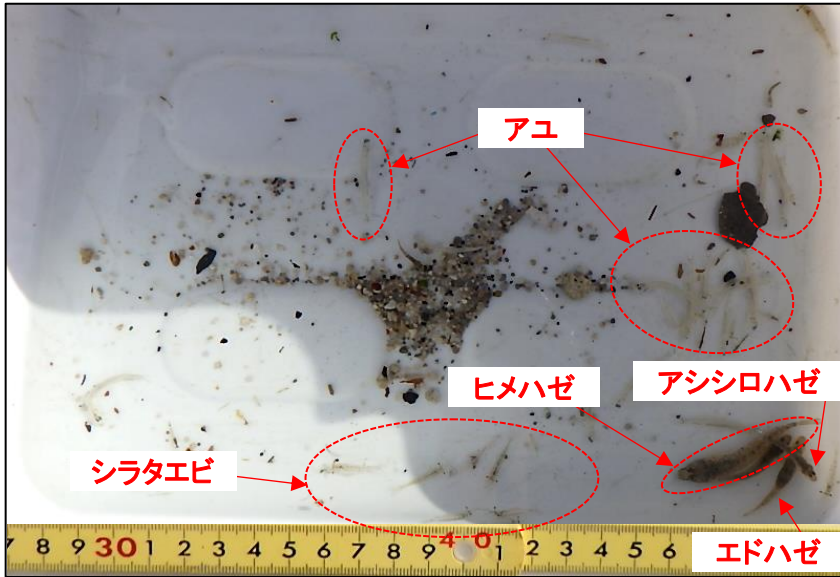
●主な出現種等 (速報のため、種名等は未確定)

主な出現種等	お台場海浜公園	城南大橋	葛西人工渚
魚種 (多い順 <sup>注</sup> )	アユ(c)	ヒメハゼ(r)	アユ(c)
	アシシロハゼ(r)	ダイナンギンポ属(r)	アシシロハゼ(r)
	スズキ(r)	アシシロハゼ(r)	
	エドハゼ(r)		
	ヒメハゼ(r)		
魚類以外	シラタエビ(+)	エビジャコ属(r)	ニホンイサザアミ(G)
	クロイサザアミ(c)	ニホンイサザアミ(r)	クロイサザアミ(G)
		クーマの仲間(r)	イソコツブムシ属(r)
備考			

注) 表中の ( ) 内の記号はだまかな個体数を表す。

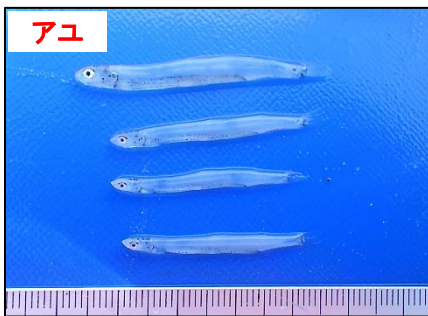
G:1000 個体以上、m:100~1000 個体未満、c:20~100 個体未満、+:5~20 個体未満、r:5 個体未満

# お台場海浜公園 採取試料



水際数メートルで急に深くなる人工の渚。

## ●主な出現種等 ※写真のスケール 1目盛:1mm



川を遡上する前の稚魚で、海で生活する間は体の透明感が強い。産卵は夏から秋に河川中流の砂礫底で行われ、孵化後卵黄を吸収しながら海に下る。



ハゼ科稚魚や甲殻類を食べながら急速に成長し、1年で20cmほどになる。成長に伴いセイゴ、フッコ、スズキと呼ばれる出世魚。



体長5cm程になる。うろこがやや粗く、成熟した個体の体側には白色の横帯がある。初夏～秋にかけて、河口付近の石や貝殻の下面に産卵する。春の干潟域に多く出現し、マハゼの稚魚等を食べる。



河口付近の干潟域に生息している小型のハゼの仲間。アナジャコ等の甲殻類の巣穴を隠れ家として利用するほか、早春には産卵場所にもしている。また、小型の甲殻類を食べる。今回採取された個体は抱卵していた。

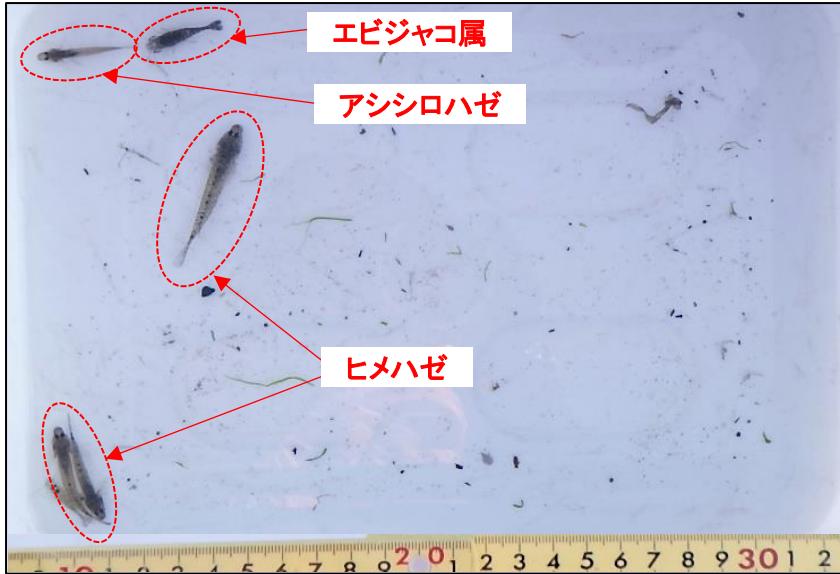


全長9cm程になる。内湾や干潟域の砂底や砂泥底に生息する。危険を察知すると砂に潜る習性があり、体の模様も砂や砂利の色によく似ている。産卵期は5月から9月で、二枚貝の貝殻の中に産卵する。



汽水域に生息する、体長7cm程になるエビ。青く長い触角を持ち、額角(がっかく)がトサカ状に盛り上がる。

# 城南大橋 採取試料



城南大橋西詰めにある干潟。北側には東京港野鳥公園がある。

## ●主な出現種等 ※写真のスケール 1 目盛:1mm



ダイナンギンポ属の仔魚。東京湾では人工護岸やアマモ場等でみられる。ダイナンギンポ属にはダイナンギンポとベニツケギンポがいるが、体幹部腹側の側線によって区別できる。



※解説はお台場海浜公園を参照。



※解説はお台場海浜公園を参照。



内湾の砂泥底に生息し、普段は砂にごく浅く潜って隠れている。環境の変化に敏感に反応して体色を変化させる。稚魚等を捕食する小型の甲殻類。



汽水域に生息するアミの仲間(エビの仲間ではない)。河口付近で春に大量発生し、魚類等の重要な餌となっている。



長い尾節が特徴の小型甲殻類で、体長は7mm程度。日中は砂泥中に潜っているが、夜は海面近くに浮上して餌をとる。



# 葛西人工渚 採取試料



調査地点の様子



調査の様子

東京湾奥にある広大な人工干潟。野鳥等保護区域のため、一般の立ち入りが禁止されている。

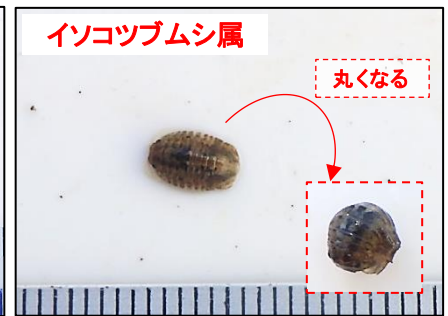
## ●主な出現種等 ※写真のスケール 1目盛:1mm



アユ  
※解説はお台場海浜公園を参照。



アシシロハゼ  
※解説はお台場海浜公園を参照。



イソツブムシ属  
ダンゴムシやオオグソクムシに近い甲殻類の仲間。体長は5～8mmで、石の下や海藻の中などに生息する。危険を感じると体を丸めて球状になる。



ニホンイサザアミ  
※解説はお台場海浜公園を参照。  
本地点ではクロイサザアミとともに大量に採取された。



クロイサザアミ  
ニホンイサザアミ同様、汽水域に生息するアミの仲間。腹部に黒色斑があり、ニホンイサザアミに比べ黒っぽい体色をしている。



調査地点である葛西人工渚(東なぎさ)はラムサール条約湿地に登録されている。

調査時には、沖合に越冬中のスズガモとみられる多数のカモ類が浮いている姿(上)や、スズキの死骸をめぐる小競り合いするトビとカラス姿(下)のなどがみられた。